

七 結論

社会的分業モデルは、経済体系の構造を規定する情報型モデルに属する。モデルの課題は、社会的分業過程の基本的諸側面を数学的に記述し、計画的社会のもっとも重要な経済学的諸範疇の量的な値を規定する可能性を、保障することにある。

とくに重要なのは、社会的分業モデルが、ソ連共産党綱領のもっとも重要な点の一つ、すなわち、「価格はますますよく社会的必要労働支出を反映し、正常に活動している各企業に、生産および流通の費用の補填とかなりの利潤を保障しなければならぬ」ということを遵守し、これを実現するための統制を現実組織することを可能にすることである。

したがって、社会的分業モデルの主要な用途はつぎの点にある。すなわち、第一に、社会的必要労働支出を規定する可能性を与えること、第二に、固定・流動ファンドおよび自然資源の利用の経済効率基準の形で、労働結果を評価する可能性を与えること、第三に、部門と個々の企業に関して、経済活動の収益基準を規定する可能性を与えることである。

共同研究室

昭和四十三年度第一回研究会（五月十日）

▼テーマ「中国の調整期の経済と対外貿易」

報告者 松野 昭二氏

（報告要旨は資料欄に掲載）

昭和四十三年度第三回研究会（六月二十一日）

▼テーマ「社会主義所有論の諸問題」

報告者 芦田 文夫氏